

復興 創造 宮 城

Vol.3

東日本大震災から1年8カ月を過ぎても、新聞やテレビで「復興」の2文字を目にしない日はありません。全国各地の皆さんからのご支援をベースに、被災地では住居再建、産業再生、雇用拡充が図られております。その歩みはさまざまですが、着実に前進しています。

東北の9月の住宅着工は前年を4割近くも上回って震災後最多となり、農畜産物の売れ行きも、安全管理への理解が浸透して回復してきました。大型小売店の販売が堅調で、仙台の有効求人倍率は11カ月連続で1倍を超え、財務省は「東北は緩やかな回復が継続」と判断しています。

おかげさまで、折込業も震災前の勢いを取り戻しつつあります。生活の再建はレスポンス向上に反映され、消費に結び付いていきます。国内景気動向はともかく、被災地に「後退」の選択はありません。あらためて皆様のご援助、ご協力に感謝しつつ、私どもも全力で努めますので、引き続きご指導をよろしくお願い申し上げます。

「復興宮城」について

このタイトル「復興」宮城は、私どもの造語で復興に歩みを進めるにあたり、旧に戻るのではなく、新たなツールを取り入れた折込商品を創りたい、進化したいと思っています。皆様方のご支援そしてアドバイスを切にお願い申し上げます。

宮城県折込広告三社会 代表幹事 木村 定

宮
城
の
消
費
は
折
込
か
ら



宮城県折込広告三社会

朝日折込 株式会社(朝日オリコミ仙台) <http://www.asa-ori.co.jp/>
株式会社 河北折込センター <http://www.kahoku-ori.comi.co.jp/>
株式会社 宮城読売インフォメーションサービス .. <http://www.miyagi-yomiuri-is.co.jp/>

水産復興 希望の氷

気仙沼 製氷工場完成

東日本大震災で壊滅した気仙沼漁協の製氷工場に代わる新たな製氷・貯水施設が、10月4日気仙沼市内に完成し試運転を開始した。漁業関係者では待ちに待った施設であり、今後の漁獲高をも左右する施設となるだろう。設計会社によると1日110トンの製氷能力は東北最大規模とのことで、震災前の水準に近づいてきた。

気仙沼漁協が国や県の補助で約20億円をかけた建設。今月中旬には、秋刀魚(サンマ)や戻りカツオ漁に対応する。魚の水揚げには氷と冷凍施設が必要で、その一翼が完備されて、漁協関係者にとっても大きなチカラとなる。完成検査があり、細かく砕かれた初氷がトラックに積み込まれる様子を、関係者が見守った。

Photo: 完成した工場から特殊な管を通して送り出される初氷。
河北新報2012年10月5日発行 朝刊より。



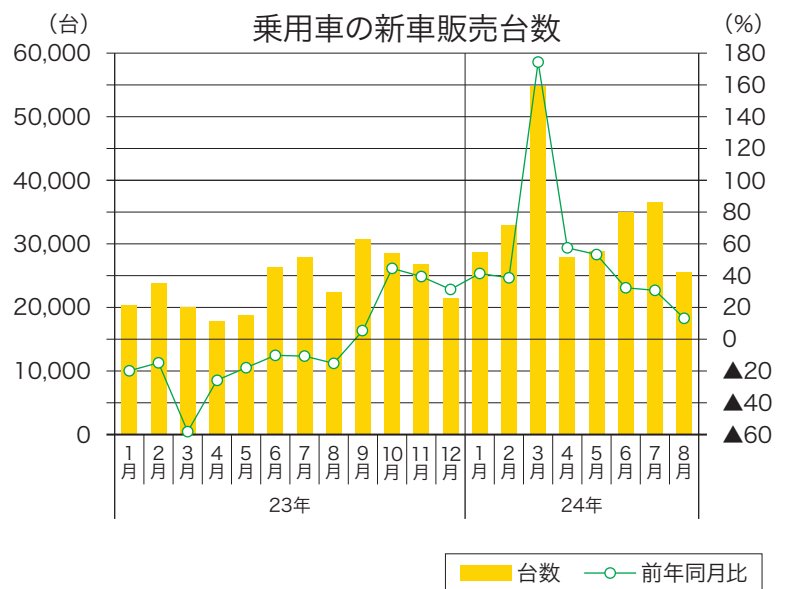
個人消費 (新車販売台数)

新車販売台数(普通、小型、軽乗用車の合計)12か月連続で前年を上回る(24年8月時点)

前年同月比13.4%増と12か月連続で前年を上回った。

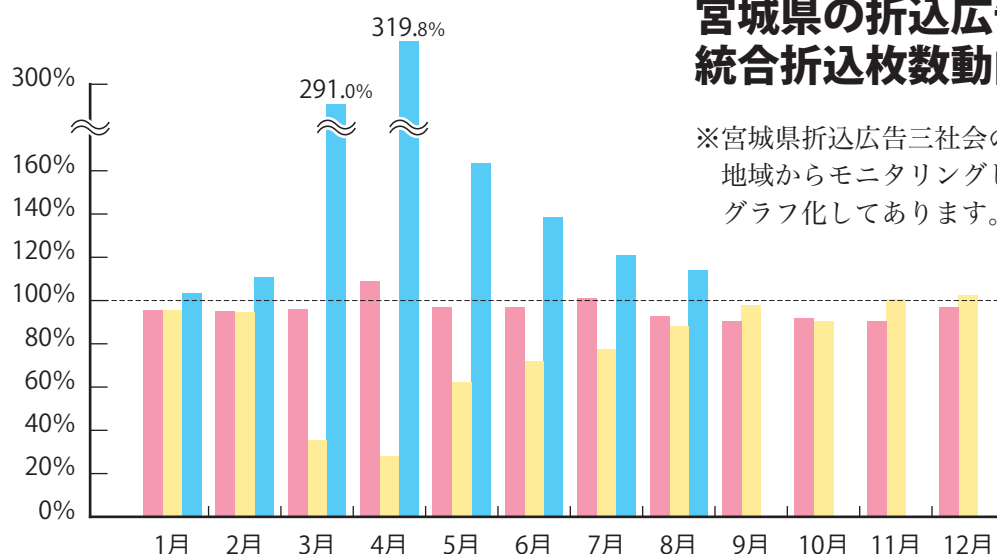
普通乗用車(同8.8%増)、小型乗用車(同7.7%増)がともに12か月連続で、軽乗用車(同23.5%増)が11か月連続で前年を上回った。

(資料より、記事一部抜粋。および編集)



資料引用(経済産業省 東北経済産業局/管内(東北6県)の経済動向)
<http://www.tohoku.meti.go.jp/>

「資料:日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会 国内自動車販売・届出台数」



宮城県の折込広告三社(部分抽出※) 統合折込枚数動向(前年同月比)

※宮城県折込広告三社会の各社がそれぞれの特定の地域からモニタリングした折込枚数を元に合算し、グラフ化してあります。

